卒業論文

Ｊリーグホームタウンの比較社会分析

――福岡市と川崎市の事例から――

2016 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2020 年 1 月　提出

要約

本論文では、Ｊリーグクラブのホームタウンである福岡市と川崎市において、行政とクラブの 2 つの観点から比較分析を行い、両市におけるＪクラブの地域密着度の差の要因について考察している。また、比較分析から得られた知見をもとに、今後のプロスポーツクラブのホームタウンにおける地域活性化のための各主体の活動方針や関係性を検討し、その理論モデルの構築を試みている。

まず、日本のスポーツ政策の変化やそこでのＪリーグの役割について整理した。また、武川（1996）や荒木（1990）の先行研究をもとに「参加」と「協働」という用語についてまとめている。くわえて、Ｊクラブと地方公共団体の利害関係の実態をつかむために武藤（2013）の研究をまとめている。そして、Ｊクラブがホームタウンの与える諸影響について把握するために、大鋸（1998）や山田（2009）の研究をもとにＪクラブの招致の影響やＪクラブによるまちづくりの実態についてまとめている。これにより、Ｊクラブを招致が地域住民に与える社会的インパクトの大きさや、行政・民間・クラブの 3 者のそれぞれのサッカーをツールとしたまちづくり活動がまとめられたが、クラブがホームタウンで長年存在しまちとともに発展するための各主体の関係性についてはあまり論じられていないとし、本論文で研究することとしている。

つぎに、比較対象の行政やクラブに関する文献、刊行物、行政計画や聞き取り調査の分析を行っている。クラブのホームタウン活動や後援会活動、行政の組織形態や地域の歴史、計画でのプロスポーツの位置づけなどの観点から、両市を比較し差異を明らかにすることを試みた。その結果、市とクラブの「パターナリズム的関係」と「パートナーシップ的関係」の差異や、クラブのホームタウン活動の対象や内容、行政のクラブ支援体制などの面で差異がみられた。以上から、福岡市と川崎市のおけるＪクラブの地域密着度の差の要因として、①行政とクラブの関係性、②理念の共有プロセス、③制度的要因の 3 つをあげた。川崎市では福岡市とは異なり、クラブと市の関係性が横並びのパートナーシップ的関係であり、相互に利益を提供しあうが、拘束感はないという関係がみられた。また、公害や企業スポーツという負のイメージの払しょくを目指す過程で、市とクラブの理念が互いに理解、共有されていった。くわえて、行政と民間の手厚いクラブ支援体制も見られた。

そして、川崎市の特徴を福岡市へ適用する可能性を検討している。まず、市と行政の関係性を緊張感と解放感を伴うパートナーシップ的関係に変化させることである。つぎに、ホー

ムタウンを周辺地域へ拡大することである。アビスパ福岡は、これまでに培ったホームタウン活動のノウハウを有していること、クラブと行政ともにネットワーク拡大の機会となること等の理由により、新たなホームタウン形成のモデルとなる可能性を検討している。そして、公民協働支援体制を確立することについても検討している。そこでは行政と民間が、クラブの社会的価値やクラブが地域資源であることを共通理解していることが必要である。

最後に、J クラブホームタウンにおける行政、民間、クラブの三者の関係性の理論モデルを構築しモデル図として提示している。そして、そこでのポイントを、①3 者の横並びのネットワーク、②地域住民に向いた活動ベクトルと活動多様性、③ホームタウンの拡大可能性、④公共サービスが生まれやすい関係性という 4 つの観点としてまとめている。J クラブホームタウンにおいては 3 者が横並びの関係になり、緊張感と解放感を伴ったネットワークを形成することで地域全体にもたらされるサービスの質も向上し、個々の主体の発展も望めるだろう。そこでの活動は、明確に地域住民の生活課題に即したものでなくてはならず、その多様性も求められる。そして、緊張感と解放感はネットワーク内にいる主体の活動促進の要因になるとともに、周辺地域の各主体がネットワークに入ろうとする動機となる。そして、こうした関係性はホームタウン全体の公共的な財やサービスの質の向上につながると考えられる。いかなる主体も何らかの公共的財やサービスの提供が求められる現代の地域社会において、本理論モデルは有効に機能すると考える。

目次

1　はじめに.....1
1.1　研究の背景.....1
1.2　比較対象クラブについて.....2
2　先行研究.....4
2.1　日本のスポーツ政策とＪリーグの理念.....4
2.1.1　日本のスポーツ政策の法整備.....4
2.1.2　体育政策からの脱却.....6
2.1.3　スポーツプロモーション政策とＪリーグ理念の共通点.....8
2.2　まちづくりにおける参加と協働.....10
2.3　自治体とＪクラブの利害関係.....12
2.3.1　地方公共団体のベネフィット.....12
2.3.2　Ｊクラブのベネフィット.....13
2.4　ホームタウンの事例.....14
2.4.1　Ｊクラブ設置の社会的インパクト.....14
2.4.2　クラブと行政と民間によるまちづくり.....15
3　調査概要.....18
4　クラブの比較.....19
4.1　クラブの沿革.....19
4.2　ホームタウン活動.....20
4.3　後援会活動.....23
5　行政の比較.....26
5.1　支援と協働.....26
5.2　自治体の歴史.....29
5.2.1　自治体の成り立ち.....30
5.2.2　プロスポーツクラブとの関わり.....32
5.3　行政組織.....35
5.3.1　地域資源としてのＪクラブ.....35
5.3.2　「川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会」.....36
5.4　スポーツを用いた事業.....37

5.4.1　目標設定.....38
5.4.2　スポーツ施策の特徴.....39
5.4.3　プロスポーツクラブの位置づけ.....42
6　考察.....47
6.1　比較分析結果.....47
6.1.1　パターナリズムとパートナーシップ.....47
6.1.2　理念の共有プロセス.....48
6.1.3　制度的要因.....50
6.2　福岡市への適用可能性の検討.....51
6.2.1　不安定性から生まれる解放感と緊張感.....51
6.2.2　ホームタウンの地域展開.....53
6.2.3　共通認識をもとにした公民連携支援.....54
6.3　新たなホームタウンのネットワークモデル.....55
6.3.1　緊張感と解放感を伴うパートナーシップ的ネットワーク.....55
6.3.2　地域住民へ向いた活動ベクトルと活動多様性.....56
6.3.3　緊張感と解放感がもたらすホームタウンの拡大可能性.....58
6.3.4　公共的サービスが生まれやすい関係性.....59
おわりに.....60
〔文献〕.....61
あとがき.....63